

環境経営レポート

(対象期間:2023 年 6 月 1 日～2024 年 5 月 31 日)

第 43 期 事業年度



発行日:2024 年 6 月 30 日

長野県岡谷市田中町 2 丁目 8-11

株式会社 牛越製作所

はじめに

当社は 1981 年長野県岡谷市にて創業し、切削加工を中心とした金属加工部品を半導体検査装置関連や航空関連などの多くの企業に高い技術力と小ロット対応力の強みを活かして供給しています。

2017 年 7 月に環境活動の更なる積極的な推進を目指して、「エコアクション 21」の認証を取得しました。また事業譲渡を受けて新設した京都工場も 2019 年 7 月に環境活動の対象範囲に拡大し、全社活動として環境経営に取り組んでいます。

一方で、ラジコン草刈り機の開発も行っています。「地域の環境維持及び草刈り作業者の負担軽減」を持続可能な開発目標として、2020 年 10 月「長野県 SDGs 推進企業」に登録されました。企業活動を通じて地球環境の維持に貢献していきます。

環境問題への取組みが人類共通の課題であると認識し、企業の社会的、公共的使命を自覚し、地球環境保全に積極的に取り組み、社会から一層信頼される企業を目指します。

1. 組織の概要

◆ 事業所名・所在地

事業所名 : 株式会社 牛越製作所
所在地 : (本社工場) 〒394-0031 長野県岡谷市田中町 2 丁目 8-11
(京都工場) 〒612-8429 京都府京都市伏見区竹田西段川原町 119

◆ 環境保全関係の責任者・担当者・連絡先

代表者 : 代表取締役 牛越 弘彰
環境管理責任者 : 専務取締役 牛越 恵
事務局 : 管理部 牛越 恵
TEL : 0266-22-5875
FAX : 0266-22-1037
E-mail : m-ushikoshi@ushikoshi.co.jp

◆ 事業の概要

半導体検査装置部品、光学関連部品、航空関連部品等の試作品/中量製品の製造

◆ 事業規模

資本金 2,400 万円
設立年月日 昭和 56 年 6 月 26 日
床面積 2,592 m² (本社工場 875 m²、京都工場 1,717 m²)
従業員 82 名 (本社工場 56 人、京都工場 26 人)
営業品目 ☐ 試作・研究部品 ☐ 新素材開発・加工 ☐ 印刷関連
☐ センサー関連部品 ☐ 組立用治具

2. 対象範囲(認証・登録範囲)

◆ レポートの対象期間

2023 年 6 月 1 日～2024 年 5 月 31 日

◆ レポートの発行日

2024 年 6 月 30 日

◆ 対象範囲

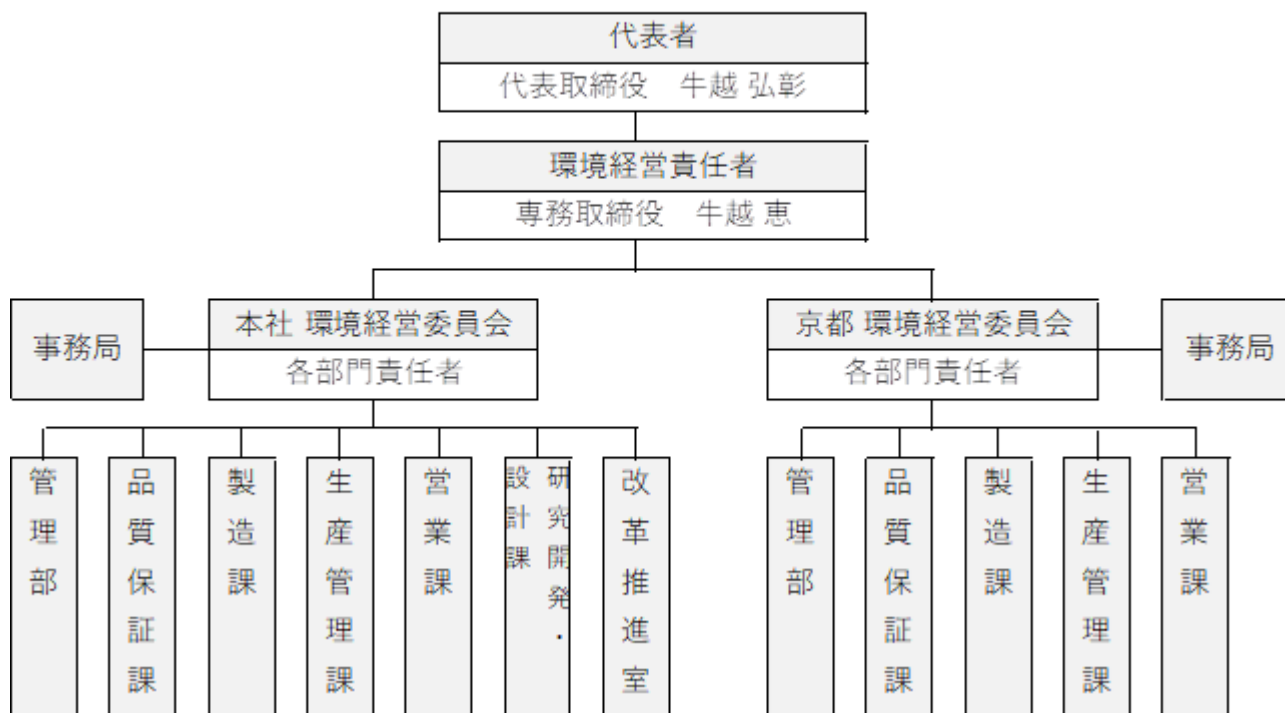
本社工場(長野県岡谷市田中町 2 丁目 8-11)及び京都工場(京都府京都市伏見区竹田西段川原町 119)にある 株式会社 牛越製作所が所有する土地・建造物とそこで働く全従業員が対象組織であり、その組織のすべての活動をもって「エコアクション 21」に取り組み、環境経営システムを構築、運用、維持するものとする。

◆ 活動組織

株式会社牛越製作所は以下の組織図に基づき、環境経営活動を行う。

2024.6.01

環境経営組織図



◇ 環境経営基本方針 ◇

当社は、環境問題への取組みが人類共通の課題であると認識し、企業の社会的、公共的使命を自覚し、地球環境保全に積極的に取組み、社会から一層信頼される企業を目指します。

当社は、事業活動を通じて消費されるエネルギーや水、資源などを最大限に有効活用し、また排出される二酸化炭素や排水、廃棄物などを最小限にする為に、事業活動の効率化や不良の低減に努めて環境に配慮した「ものづくり」を推進し、人と環境が調和した未来に貢献します。

<環境基本方針>

- ・当地域（長野・京都）に適用される環境法、自主基準及び同意するその他の要求事項を厳守します。
- ・当地域における企業活動と、製品及びサービスが与える環境影響を自覚し、継続的な改善を図ります。
- ・環境経営システム(エコアクション21)を活用して、地球環境保全に積極的に取り組みます。

<具体的行動>

- ・二酸化炭素排出量の削減 ・廃油量の削減 ・水使用量の削減
- ・生産の効率化 ・不良の低減（エネルギー、資源ロスの削減）

2024 年 6 月 1 日

株式会社 牛越製作所

代表取締役 牛越弘彰

4. 環境経営目標

◆ 環境経営目標 中期(2021年度～2023年度)

当社は事業の拡大に対応した環境経営活動を推進していく為に、2021 年度より「総量の目標管理」から「原単位の目標管理」に変更しました。

当社の事業の主目的である「加工の付加価値」を代替する「加工設備の総稼働時間」を原単位として設定し、原単位当たりの IN-PUT(資源)と OUT-PUT(排出物)の最少化を図ることで、環境負荷の低減活動を推進しています。

中期目標として2020 年度の実績を基準年度として設定し、毎年2%削減を目指して活動を進めています。

〈全社中期目標〉 本社工場＋京都工場

取組項目	単位	基準年度	環境経営目標		
		2020年度 実績	2021年度	2022年度	2023年度
		2020.6～2021.5	2021.6～2022.5	2022.6～2023.5	2023.6～2024.5
	設備稼働時間	44,080			
二酸化炭素排出量の削減 〈削減率〉	Kg-CO2 Kg-CO2/稼働時間 %	423,515 9.61	9.42 〈2%削減〉	9.22 〈4%削減〉	9.03 〈6%削減〉
廃棄物(廃油)排出量の削減 〈削減率〉	kg kg/稼働時間 %	6,000 0.136	0.133 〈2%削減〉	0.131 〈4%削減〉	0.128 〈6%削減〉
水使用量の削減 〈削減率〉	m ³ m ³ /稼働時間 %	668 0.0152	0.0149 〈2%削減〉	0.0145 〈4%削減〉	0.0142 〈6%削減〉
出荷検査不良の低減 〈削減率〉	% %	0.74%	0.55% 〈25.7%削減〉	0.55% 〈25.7%削減〉	0.55% 〈25.7%削減〉

※二酸化炭素排出量の削減①・・・電力 CO2 排出係数を従来使用していた 2014 年実績から 2022 年実績に更新した為、それに合わせて基準年度と環境経営目標の数値を再算出

※二酸化炭素排出量の削減②・・・賃貸で間借りしている本社の食堂/会議室/開発の部屋の電気使用量も環境経営の実績に含めて管理する事にした為、基準年度と環境経営目標の数値を再算出

※設備稼働時間・・・加工設備の主軸が回転し、切削している正味稼働時間

※出荷検査不良率・・・毎年設定している「品質活動 目標値」に合わせて1年ごと目標を設定する

1)内訳 〈本社工場〉

取組項目		基準年度	環境経営目標			
	単位	2020年度 実績	2021年度	2022年度	2023年度	
		2020.6～2021.5	2021.6～2022.5	2022.6～2023.5	2023.6～2024.5	
	設備稼働時間	28,817				
二酸化炭素排出量 の削減 ＜削減率＞	Kg-CO2 Kg-CO2/稼働時間 %	235,662 8.18	8.01 ＜2%削減＞	7.85 ＜4%削減＞	7.69 ＜6%削減＞	
廃棄物(廃油)排出量 の削減 ＜削減率＞	kg kg/稼働時間 %	4,400 0.153	0.150 ＜2%削減＞	0.147 ＜4%削減＞	0.144 ＜6%削減＞	
水使用量の削減 ＜削減率＞	m ³ m ³ /稼働時間 %	561 0.0195	0.0191 ＜2%削減＞	0.0187 ＜4%削減＞	0.0183 ＜6%削減＞	
出荷検査不良の低減 ＜削減率＞	% %	0.74%	0.55% ＜25.7%削減＞	0.55% ＜25.7%削減＞	0.55% ＜25.7%削減＞	

2)内訳 〈京都工場〉

取組項目		基準年度	環境経営目標			
	単位	2020年度 実績	2021年度	2022年度	2023年度	
		2020.6～2021.5	2021.6～2022.5	2022.6～2023.5	2023.6～2024.5	
	設備稼働時間	15,263				
二酸化炭素排出量 の削減 ＜削減率＞	Kg-CO2 Kg-CO2/稼働時間 %	187,853 12.31	12.06 ＜2%削減＞	11.82 ＜4%削減＞	11.57 ＜6%削減＞	
廃棄物(廃油)排出量 の削減 ＜削減率＞	kg kg/稼働時間 %	1,600 0.105	0.103 ＜2%削減＞	0.101 ＜4%削減＞	0.099 ＜6%削減＞	
水使用量の削減 ＜削減率＞	m ³ m ³ /稼働時間 %	107 0.0070	0.0069 ＜2%削減＞	0.0067 ＜4%削減＞	0.0066 ＜6%削減＞	
出荷検査不良の低減 ＜削減率＞	% %	0.74%	0.55% ＜25.7%削減＞	0.55% ＜25.7%削減＞	0.55% ＜25.7%削減＞	

◆環境経営 年度目標（2023 年度）

＜全社＞ 本社工場＋京都工場

環境目的	具体的目標	責任者/対象	目標値等
二酸化炭素 排出量の削減	電気使用量の削減	改革推進室 /全部門	9.03 Kg-CO2/稼働時間
廃棄物 排出量の削減	廃油（クーラント）の 排出量削減	製造課	0.128 Kg/稼働時間
水使用量の削減	水量管理の徹底	生産管理課 /全部門	0.0142 m ³ /稼働時間
環境に配慮した 不良の低減	出荷不良率の低減	品質保証課 /全部門	0.55%

(1)＜本社工場＞

環境目的	具体的目標	責任者/対象	目標値等
二酸化炭素 排出量の削減	電気使用量の削減	改革推進室 /全部門	7.69 Kg-CO2/稼働時間
廃棄物 排出量の削減	廃油（クーラント）の 排出量削減	製造課	0.144 Kg/稼働時間
水使用量の削減	水量管理の徹底	生産管理課 /全部門	0.0183 m ³ /稼働時間
環境に配慮した 不良の低減	出荷不良率の低減	品質保証課 /全部門	0.55%

(2)＜京都工場＞

環境目的	具体的目標	責任者/対象	目標値等
二酸化炭素 排出量の削減	電気使用量の削減	副工場長 /全部門	11.57 Kg-CO2/稼働時間
廃棄物 排出量の削減	廃油（クーラント）の 排出量削減	製造課	0.099 Kg/稼働時間
水使用量の削減	水量管理の徹底	管理部 /全部門	0.0066 m ³ /稼働時間
環境に配慮した 不良の低減	出荷不良率の低減	品質保証課 /全部門	0.55%

5. 環境経営計画（2023 年度）

(1)〈本社工場〉

具体的目標	活動計画		活動内容	担当部門	期限
電気使用量 削減	①	コンプレッサー効率的使用と性能の維持	・適正稼働台数管理(昼夜) ・日常点検の実施(毎日)	改革推進室 /製造課	毎日 毎日
	②	エアー漏れ撲滅による電力ロスの改善	・工場内配管/生産設備のエアー漏れ確認→対策	改革推進室 /製造課	2023.9～11
	③	コンプレッサー廃棄熱の有効利用	・廃棄熱の工場内引き込み(暖房として使用)	改革推進室	2023.12 ～2024.3
	③	電力デマンド管理の徹底(電気使用の時間分散管理)	・デマンド管理装置の有効活用と電気使用の分散対応	改革推進室	2023.7～9
	⑤	エアコン/照明の電気使用量削減	・最終点検の厳格運用 ・エアコン室外機日除け設置	改革推進室 /製造課	2023.6～8
	⑥	電気使用量に対する環境意識の高揚	・電気使用量実績の月次報告と啓蒙（製造/管理部門）	工場長	毎月 各月例会議
廃油の 排出量削減	①	クーラント交換の計画的実施による使用期間の適性化	・加工設備別クーラント交換年間計画の作成と実施	製造課	2023.8 2023.12
	②	クーラント長期使用方法の検討と実践	・オイルスキマーの設置拡大	製造課	順次
水量管理の 徹底	①	水使用に対する環境意識の高揚	・流し台に節水ポスター掲示	生産管理課 /管理部	2023. 7
	②	洗浄工程の水使用量の削減	・超音波洗浄機の有効活用		2023.6～
出荷不良率 の低減	①	品質改善活動による不良率低減	・月次品質会議の毎月開催 ・品質基本研修の毎月開催 ・異常処置票の有効活用	品質保証課 /全部門	毎月 都度

(2)〈京都工場〉

具体的目標	活動計画		活動内容	担当部門	期限
電気使用量削減	①	コンプレッサー効率的使用と性能の維持	・日常点検の徹底 ・インバータ機の活用	製造課	毎日 毎日
	②	エアー漏れ撲滅による電力ロスの改善	・工場内配管/生産設備のエアー漏れ確認→対策	製造課/ 生産管理課	都度
	③	コンプレッサー廃棄熱の有効利用	・廃棄熱の工場内引き込み(暖房として使用)	製造課	2023.11～ 2024.3
	④	電力デマンド管理の徹底(電気使用の時間分散管理)	・デマンド監視装置の有効活用と電気使用の分散対応	製造課	毎日
	⑤	エアコン/照明の電気使用量削減	・エアコン室外機日除け設置 ・屋上の水撒き(1日4回) ・休憩時間の消灯の徹底	製造課 管理部	2023.6 ～ 2023.9迄 毎日
	⑥	電気使用量に対する環境意識の高揚	・電気使用量実績の月次報告と啓蒙	工場長	毎月 京都全体会議
廃油の排出量削減	①	クーラントの長期使用	・クーラントクリーニング作業の徹底	製造課	都度
水量管理の徹底	①	水使用に対する環境意識の高揚	・節水シールの貼り付けの見直し	管理部	2023.7迄
	②	水道管更新後の水漏れ監視	・水道使用量の定期管理	副工場長	2ヶ月毎
出荷不良率の低減	①	品質改善活動による不良率低減	・京都全体会議の毎月開催 ・品質基本研修の毎月開催 ・異常処置票の有効活用	品質保証課/ 全部門	毎月 毎月 都度

◇環境経営計画(2023 年度)に基づき実施した取組内容

(1)〈本社工場〉

具体的目標	活動計画		活動内容	担当部門	実施状況 /進捗
電気使用量 削減	①	コンプレッサー効率的使用と性能の維持	・適正稼働台数管理(昼夜) ・日常点検の実施(毎日)	改革推進室 /製造課	毎日実施 毎日実施
	②	エアー漏れ撲滅による電力ロスの改善	・検査室エアー圧確認 ・工場内配管/生産設備のエアー漏れ確認 ・配管の部品交換	改革推進室 /製造課	2023.7 実施 2023.8 実施 2024.1 実施
	③	コンプレッサー廃棄熱の有効利用	・廃棄熱の工場内引き込み(暖房として使用)	改革推進室	2023.12～ 2024.3 実施
	④	電力デマンド管理の徹底	・デマンド管理装置の有効活用と電気使用の分散対応 ・空気清浄機使用時間設定	改革推進室	2023.7～9 実施
	⑤	エアコン/照明の電気使用量削減	・最終点検の厳格運用 ・エアコン室外機日除け設置	改革推進室 /製造課	毎日実施 2023.6～8
	⑥	電気使用量に対する環境意識の高揚	・電気使用量実績の月次報告と啓蒙 (製造/管理部門)	工場長	毎月実施 各月例会議 実施(12 回)
廃油の 排出量削減	①	クーラント交換の計画的実施による使用期間の適性化	・加工設備別クーラント交換年間計画の作成と実施	製造課	2023.8 実施 2023.12 実施
	②	クーラント長期使用方法の検討と実践	・オイルスキマーの設置拡大	製造課	2023.11 実施
水量管理の 徹底	①	水使用に対する環境意識の高揚	・節水シールの貼り付けの見直し	管理 /改革推進	2023. 9 実施
	②	洗浄工程の水使用量の削減	・超音波洗浄機の有効活用		都度実施
出荷不良率 の低減	①	品質改善活動による不良率低減	・月次品質会議の毎月開催 ・品質基本研修の毎月開催 ・異常処置票の有効活用	品質保証課 /全部門	毎月実施 毎月実施 都度実施

(2)〈京都工場〉

具体的目標	実施項目		活動実績	実施部門	実施状況 /進捗
電気使用量 削減	①	コンプレッサー効率的使用と 性能の維持	・日常点検の徹底 ・インバータ機の活用	製造課	毎日実施 毎日実施
	③	放電加工機のエアーク消費削減	・エアバルブの取り付け	京都工場	都度実施
	③	コンプレッサー廃棄熱の有 効利用	・廃棄熱の工場内引き込み (暖房として使用)	製造課	2023.11 ～ 2024.3 実施
	④	電力デマンド管理の徹底	・電気使用の時間分散対応	製造課	都度
	④	エレベーターの電気使用量 削減	・エレベーターのリニューアル実施	副工場長	2023.5 実施
	⑤	エアコン/照明の電気使用量 削減	・エアコン室外機日除け設置 ・屋上の水撒き(1日4回) ・休憩時間の消灯の徹底	製造課 管理部	2023.6 ～ 2023.9 実施 毎日
	⑤	電気使用量に対する環境意 識の高揚	・電気量実績の月次報告と 啓蒙 (京都全体会議) ・各フロア掲示	工場長	毎月実施 (計 12 回)
廃油の 排出量削減	①	クーラントの長期使用	・オイルスキマーの設置	製造課	2023.5
	②	クーラントのリサイクル化	・クーラント買取りサイクル業 者との取引開始	製造課	取引開始
水量管理の 徹底	①	水使用に対する環境意識の 高揚	・節水シールの貼り付けの見 直し	管理部	2023.7 実施
	②	水道管更新後の水漏れ監視	・水道使用量の定期管理	副工場長	2ヶ月毎 監視実施
出荷不良率 の低減	①	品質改善活動による不良率 低減	・京都全体会議の毎月開催 ・品質基本研修の毎月開催 ・不良対策会議の毎月開催	品質保証課 /全部門	毎月実施 毎月実施 毎月実施

◇環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、
並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

◆ 環境経営目標の達成状況(2023 年 6 月～2024 年 5 月)

(1)＜全社＞ 本社工場＋京都工場

加工設備総稼働時間 2020 年度 44,080 時間 → 2023 年度 51,090 時間 (15.9%UP)

取組項目	単位	基準値 (2020年度)	目標	実績	評価
二酸化炭素排出量削減 (削減率)	Kg-CO ₂ /稼働時間	9.61	<6%削減> 9.03	<5.2.%増加> 10.11	×
廃棄物排出量削減 廃油 (削減率)	Kg /稼働時間	0.136	<6%削減> 0.128	<31.0%削減> 0.094	◎
水使用量削減 (削減率)	m ³ /稼働時間	0.0152	<6%削減> 0.0142	<5.6%削減> 0.0143	○
製品への環境配慮 出荷検査不良率の低減	%	0.74	<25.7%削減> 0.55	<33.8%削減> 0.51	◎
若手人材の育成 (体系的加工知識の習得に よる加工の効率化)			旋盤 3 級技能検 定(国家資格) 受講完了 2 名	旋盤 3 級技能検 定(国家資格) 受講完了 2 名	○

◆ 総合評価

今期 2023 年度(2023.6～2024.5)は前年度までの受注の大幅な増加による増産体制から一転し、当社の主要顧客である半導体製装置関連の会社に景気の陰りが見られ、前年度比 10.7%減の売上となりました。その為、一部の生産設備で「手空き」が発生し、保有する設備に対して効率の悪い生産となりました。

その様な中、全社で積極的な環境負荷低減活動を行いました。特に環境に影響の大きい電気使用量削減はエアコンやコンプレッサー、照明機器など生産の状況に合わせてきめ細かな調整を行い対応しました。

また、廃油の排出量は計画的なクーラント交換の実施やオイルスキマー設置の増設を行い、原単位で基準年度比 31.0%と大幅に削減する事が出来ました。特に京都工場では先期より油性のクーラントの廃液を業者に買い取ってもらいリサイクルに繋げています。

水使用量削減については節水意識を高める活動や超音波洗浄機を有効活用して水使用量の削減に取り組み、ほぼ計画通りに削減する事が出来ました。

出荷検査不良率の低減については、ここ数年続けてきている品質基本研修や品質会議を毎月開催し、地道な活動を継続的に行った事により、出荷検査不良率を 0.51%まで低減する事が出来、作り直しによる資源のムダや廃棄の削減に繋げる事が出来ました。

また、今期は新卒社員の入社を継続する事が出来ませんでした。若い2名の社員に国家資格である旋盤3級技能検定に一年をかけて受講させる事が出来ました。今後も計画的に教育計画を立て若い技術者の育成を図ります。

また、SDGsに登録され、開発を進めているラジコン草刈り機は各種の団体様に運用テストをして頂き、課題の洗い出しを行いながら改良を重ねてきました。今期は数台の量産試作を行い、設計完了に向けての活動を進めています。

(2)内訳 〈本社工場〉

加工設備総稼働時間 2020 年度 28,817 時間 → 2023 年度 29,648 時間 (2.9%UP)

取組項目	単位	基準値 (2020 年度)	目標	実績	評価
二酸化炭素排出量削減 (削減率)	Kg-CO ₂ /稼働時間	8.18	<6%削減> 7.69	<16.7%増加> 9.54	×
廃棄物排出量削減 廃油 (削減率)	Kg /稼働時間	0.153	<6%削減> 0.144	<29.3%削減> 0.108	◎
水使用量削減 (削減率)	m ³ /稼働時間	0.0195	<6%削減> 0.0183	<0.9%削減> 0.0193	△
製品への環境配慮 出荷検査不良率の低減	%	全社合計 0.74	<25.7%削減> 0.55	<31.1%削減> 0.51	◎

◆達成状況の反省と次年度の取り組み 〈本社工場〉

本社工場は主要顧客である半導体製造装置関連の景気低迷に伴い、設備稼働時間は前期比 10.4%減少し、2020 年度 28,817 時間→2023 年度 29,648 時間と 2.9%増加に留まりました。

① 二酸化炭素排出量削減

二酸化炭素排出の大部分を占める電力使用量は 2020 年度と比較して 21.8% (440,975KWh→537,045KWh) の増加となりました。要因としては先期 2 台導入した 5 軸マシニングセンタは従来のマシニングセンタと比較して電力使用量が非常に大きく、全体を押し上げています。その一方でエアコンやコンプレッサーの効率的な運用管理などを行ったりして省電力化に努めました。

② 廃棄物排出量削減（廃油）

加工設備別の年間計画に基づいてクーラント交換を行い、使用期限の適性化を図りました。またオイルスキマー（浮上油除去装置）を増設やクーラントのクリーニング作業を徹底する事により、クーラントの長期使用化を図りました。

③ 水使用量削減

水使用量は 2020 年度 561 m³→2022 年度 572 m³と 2.0%の増加に抑える事が出来ました。生産の増加に伴って洗浄が必要な加工品も増えてましたが、超音波洗浄機を活用する事により、水の使用量を減らすことが出来ました。また、人員も 2 名増加しましたが、節水ポスターの掲示も追加して節水意識を高め、水の使用量の増加率を低く抑える事が出来ました。

(3)内訳 〈京都工場〉

加工設備総稼働時間 2020 年度 15,263 時間 → 2023 年度 21,443 時間（40.5%UP）

取組項目	単位	基準値 (2020 年度)	目標	実績	評価
二酸化炭素排出量削減 (削減率)	Kg-CO ₂ /稼働時間	12.31	<6%削減> 11.57	<11.5%削減> 10.90	◎
廃棄物排出量削減 廃油 (削減率)	Kg /稼働時間	0.105	<6%削減> 0.099	<28.8%削減> 0.075	◎
水使用量削減 (削減率)	m ³ /稼働時間	0.0070	<6%削減> 0.0066	<5.8%増加> 0.0074	×
製品への環境配慮 出荷検査不良率の低減	%	全社合計 0.74	<25.7%削減> 0.55	<31.1%削減> 0.51	◎

◆達成状況の反省と次年度の取り組み 〈京都工場〉

京都工場はここ 2～3 年で新規に導入したマシニングセンタの活用が進み、また夜間の無人稼働の時間も伸びた事により、基準年度と比較して設備稼働時間は 40.5%の増加となりました。生産効率の改善が図られた事により、環境に対するの負荷も原単位で大幅に良化させる事が出来ました。

① 二酸化炭素排出量削減

設備稼働時は 40.5%と大幅に増加しましたが、コンプレッサーの日常点検や修理、エアー漏れの点検などの徹底やエアコンや照明の適切な使用管理を徹底した事により、二酸化炭素排出の大部分を占める電力使用量は基準年度と比較して 24.5%の増加に抑える事が出来ました。その活動により環境への負荷を原単位で大幅に減らすことが出来ました。

② 廃棄物排出量削減（廃油）

京都工場は機械設備に合わせて油性と水溶性の 2 種類のクーラントを使用していますが、油性のクーラントについては買い取り業者を見つけ、リサイクルする事が出来る様になりました。また水溶性のクーラントについてはオイルスキマーを導入してクーラントの長期使用を図りました。

③ 水使用量削減

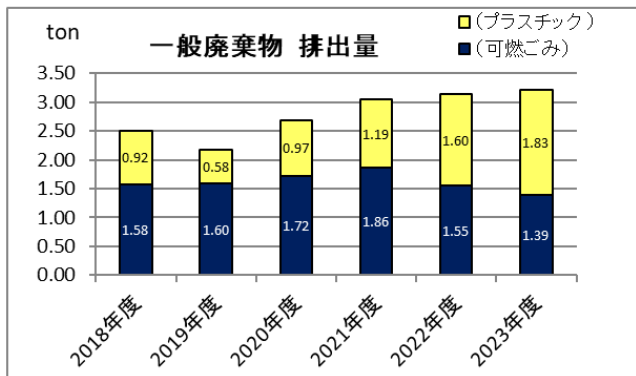
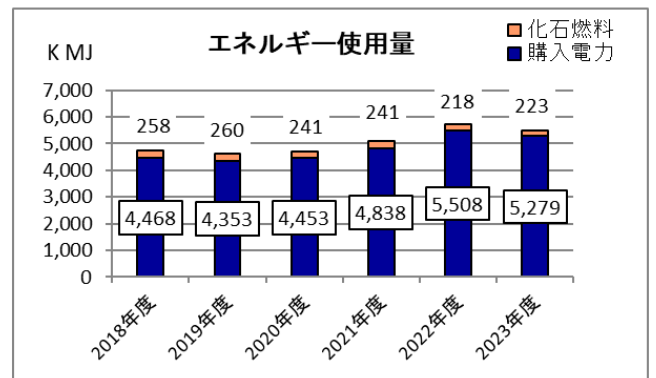
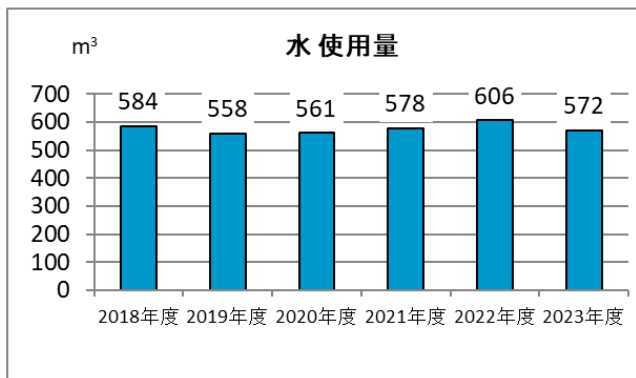
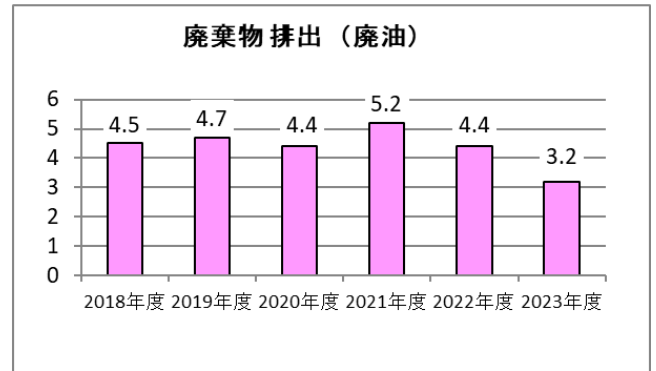
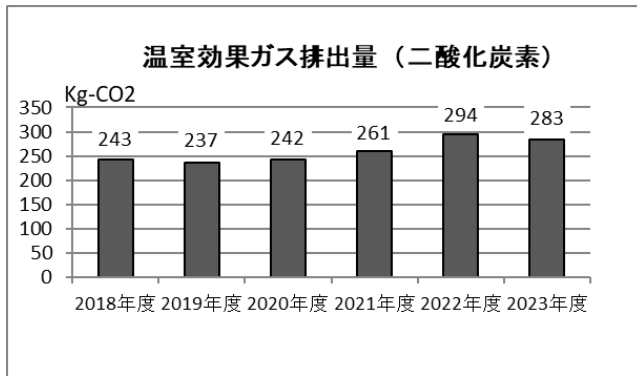
2 年前に工場内の配管に漏水が発生した為、水道管の配管をやり直しました。その後、毎月の水使用量の変動を注意深く確認していますが、大きな問題は発生していません。また、節水の呼びかけや明示を行い、水の使用削減に取り組んでいます。しかし今期は水を多く使う「ワイヤーカット工程」が増加した為、基準年度と比較して若干の増加となりました。

(1) 環境への負荷 <本社工場>

環境への負荷			単位	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
温室効果ガス 排出量	二酸化炭素		t- CO ₂	243	237	242	261	294	283
廃棄物排出量 及び 廃棄物最終処 分量	一般 廃棄物	可燃ごみ	t	1.58	1.60	1.72	1.86	1.55	1.39
		プラスチック	t	0.92	0.58	0.97	1.19	1.60	1.83
	産業 廃棄物	金属	t	0	0	0	0	0	0
		廃油	t	4.5	4.7	4.4	5.2	4.4	3.2
総排水量	公共用水域		m ³	0	0	0	0	0	0
	下水道		m ³	583	584	558	561	606	572
水使用量	上水		m ³	583	584	558	561	606	572
	工業用水		m ³	0	0	0	0	0	0
	地下水		m ³	0	0	0	0	0	0
化学物質使用 量	該当品なし		Kg	0	0	0	0	0	0
エネルギー使用 量	購入電力 (新エネルギーを除く)		KMJ	4,468	4,353	4,453	4,838	5,508	5,279
	化石燃料		KMJ	258	260	241	241	218	223
	新エネルギー		KMJ	0	0	0	0	0	0
	その他		KMJ	0	0	0	0	0	0
物質使用量	資源使用量		t	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし
	循環資源使用量		t	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし
サイト内で循環 的利用を行って いる物質等	利用された物質等		t	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし
	水の利用量		m ³	0	0	0	0	0	0
総製品生産量ま たは総商品販売 量	製品生産量等		t	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし
	環境負荷低減に資 する製品等		t	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし
	容器包装使用量		t	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし

※購入電力の排出係数は算出基準の継続性維持の為、2022年度の中部電力株式会社・実排出係数の値を用
いています。 CO2 排出単位(KG-CO2/KWh) 0.498

環境への負荷 〈本社工場〉 グラフ表示

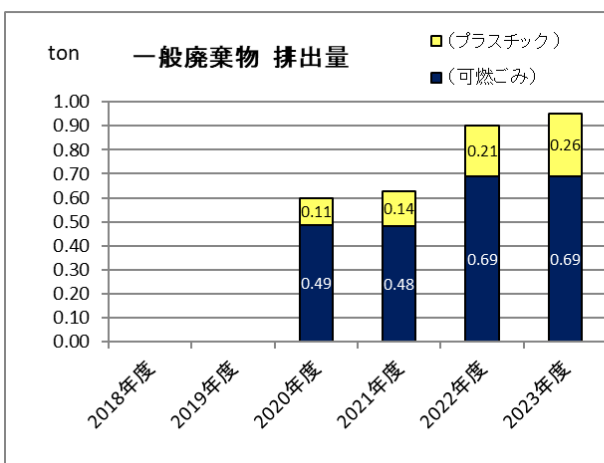
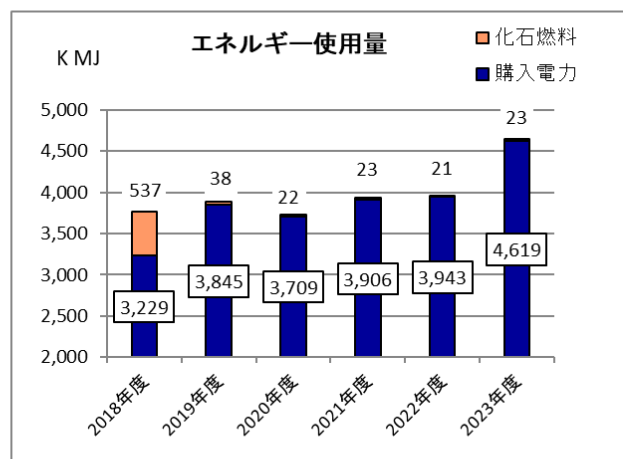
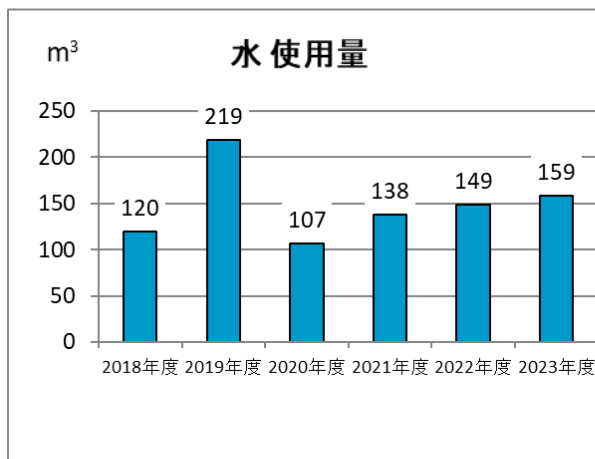
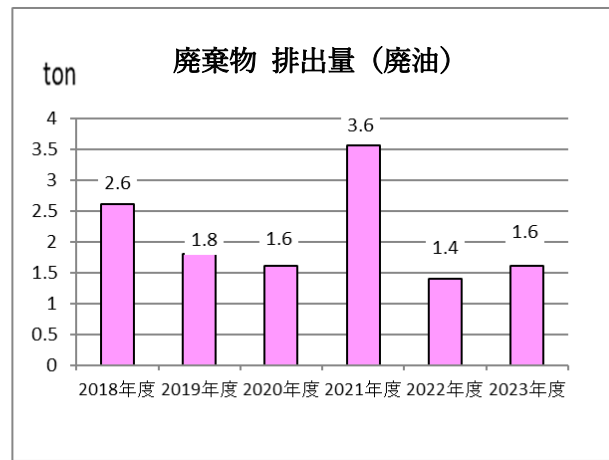
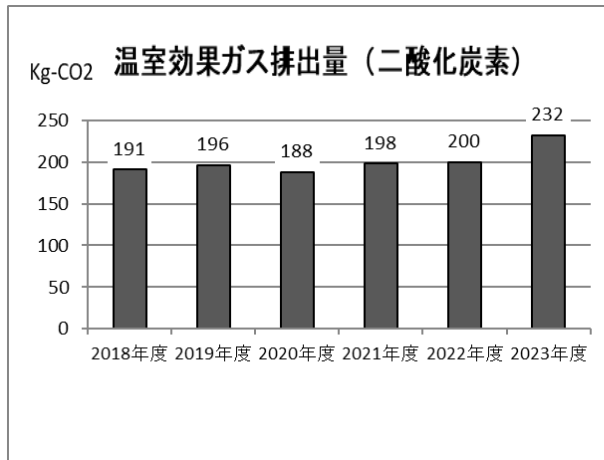


(2) 環境への負荷 <京都工場>

(3) 環境への負荷			単位	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
温室効果ガス 排出量	二酸化炭素		t- CO ₂	191	196	188	198	200	233
廃棄物排出量 及び 廃棄物最終処分 量	一般 廃棄物	可燃ごみ	t			0.49	0.48	0.69	0.69
		プラスチック	t			0.11	0.14	0.21	0.26
	産業 廃棄物	金属	t	0	0	0	0	0	0
		廃油	t	2.6	1.8	1.6	3.6	1.4	1.6
総排水量	公共用水域		m ³	0	0	0	0	0	0
	下水道		m ³	120	219	107	138	149	159
水使用量	上水		m ³	120	219	107	138	149	159
	工業用水		m ³	0	0	0	0	0	0
	地下水		m ³	0	0	0	0	0	0
化学物質使用量	該当品なし		Kg	0	0	0	0	0	0
エネルギー使用量	購入電力 (新エネルギーを除く)		KMJ	3,229	3,845	3,709	3,906	3,943	4,619
	化石燃料		KMJ	537	38	22	23	21	23
	新エネルギー		KMJ	0	0	0	0	0	0
	その他		KMJ	0	0	0	0	0	0
物質使用量	資源使用量		t	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし
	循環資源使用量		t	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし
サイト内で循環的 利用を行っている 物質等	利用された物質 量		t	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし
	水の利用量		m ³	0	0	0	0	0	0
総製品生産量また は総商品販売量	製品生産量等		t	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし
	環境負荷低減に 資する製品等		t	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし
	容器包装使用量		t	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし	統計なし

※購入電力の排出係数は算出基準の継続性維持の為、2022年度の中央電力株式会社・実排出係数の値を用いています。
CO2 排出単位 (KG-CO2/KWh) 0.494

環境への負荷 〈京都工場〉 グラフ表示



8. 環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況のチェック結果

当社の事業活動に関連する主な環境関連法規等は下記のとおりです。環境関連法規への違反はありませんでした。また、関係当局より違反等の指摘ありませんでした。

〈本社工場〉

適用される法規制等	法規制の内容	遵守状況			
		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
騒音規制法 振動規制法	空気圧縮機(7.5kw 以上)施設の届出 騒音測定 (1 回/年)	コンプレッサー室横 67dB ※注1	コンプレッサー室横 68dB ※注1	コンプレッサー室横 69dB ※注1	コンプレッサー室横 68dB ※注1
廃掃法	産業廃棄物:マニフェスト交付状況の報告 一般廃棄物:資源ごみ、可燃ごみ(分別廃棄処理)	遵守	遵守	遵守	遵守
フロン排出抑制法	廃棄 機器点検 点検記録(3ヶ月毎)	遵守	遵守	遵守	遵守

※注1 コンプレッサー室横の騒音測定値は規制値をオーバーしているが、隣接地が使用されていない工場の為、影響なしと判断。

〈京都工場〉

適用される法規制等	法規制の内容	遵守状況			
		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
騒音規制法 振動規制法 京都府環境を守り育てる条例	空気圧縮機(3.75kw 以上)施設の届出 騒音測定 (1 回/年)	届出済み 54.9dB	届出済み 54.9dB	届出済み 53.9dB	届出済み 54.4dB
廃掃法	産業廃棄物:マニフェスト交付状況の報告 一般廃棄物:分別廃棄処理	提出済み 遵守	提出済み 遵守	提出済み 遵守	提出済み 遵守
フロン排出抑制法	廃棄 簡易機器点検(3ヶ月毎) 定期点検(3ヶ年毎)	遵守	遵守 ※注 1	遵守	遵守
PCB 特別措置法	ポリ塩化ビフェニル含有電気機器の調査	含有電気機器なし	含有電気機器なし	含有電気機器なし	含有電気機器なし

※注 1 専門業者による定期点検を 2022 年 5 月に実施。

9. 代表者による全体の評価と見直し

2024 年 6 月 19 日、代表者による取組と実施体制の見直しを行い、次の結果が得られました。

インプット(審議事項)	アウトプット(見直し結果:社長指示)	担当	期限
(1)外部監査の予定 (環境経営責任者) 7 月 19 日 京都工場 現地審査 7 月 31 日 本社工場 現地審査	活動内容に見落としがないか、事前準備と確認を進める事。	牛越 恵	2024 年 7 月 12 日
(2)最近の不適合事例及び是正処置・ 予防処置(環境経営委員) 無し	不適合発生時は、是正処置・予防処置を考え、全社で共有する事。	環境経営 各部門責任者	都度
(3)地域住民などの利害関係者からの苦情及び是正処置・予防処置 (環境経営責任者) 2023 年度 本社 3 件 是正済み 2023 年度 京都 2 件 是正済み	周りに迷惑を掛けずに様に対策を行い、経過観測を行う事。 また、草取りなど環境美化活動を定期的 に実施する事	牛越 恵 河本	都度
(4)法規制、遵守評価、社会状況の変化 (環境経営責任者)騒音測定結果 3 ヶ月毎の測定 基準値以下	規制値範囲を意識し、関係する様々な 法令に対応していく事。	牛越 恵	都度
(5)目標の達成状況 (環境経営委員) 目標に対する実績を報告する。	基準値より増加してしまっている項目を 中心に対策を立案し対応する事。	春日	2024 年 8 月末
(6)負荷の自己チェックの結果 (環境経営委員) 負荷の自己チェックを報告	自己チェックの結果について増加してし まった項目を中心に対策を立案し対応を 図る事。	春日	2024 年 8 月末
(7)環境経営方針、環境経営目標、環 境経営計画の見直しの検討 (環境経営責任者)	現在の環境経営方針に事業の活動目標 である経営計画書の内容を盛り込み、統 合を図る	牛越 恵 春日	2024 年 6 月末
(8)実施体制の見直しの検討 (環境経営責任者)	現在の環境経営組織は有効と判断し、 継続とする。	なし	なし

以上